

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

茨城県那珂郡山方町

2 地域再生計画の名称

盛金WAC（ワック）ローカルアクティベーション

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成16年6月から平成21年3月

4 地域再生計画の意義と目標

山方町は県都水戸市から約30km、JR水郡線で1時間、常磐自動車道那珂インターから約40分圏内にあり、人口7,681人（H15.10.1現在）の過疎の町である。総面積は84.06[?]で、その約70%を山林原野が占めている。北部に海拔100から500mの起伏の多い山地が連なり、鮎で有名な久慈川が南北に縦貫する。気候は内陸性気候に属し年間平均気温は13℃内外で、年間平均降雨量は、1,500mmと比較的少ない。久慈川に沿って国道118号とJR水郡線が走り、県立奥久慈自然公園の玄関口に当たる山紫水明、風光明媚な町である。高度経済成長時の昭和55年に735人あった児童数が、平成元年には655人、平成13年には423人に激変したことから昨年3月、8校（分校を含む）あった学校が2校に再編され、6校が廃校となった。地域のシンボルとなっていた学校は、児童の教育の場というだけでなく、父兄や地域住民の生涯学習の場としても大きな役割を果たしてきたが、廃校によって、これまで保たれてきた地域全体の連帯感が薄れ、活力が停滞してしまうことが懸念されている。

このため、町では平成15年度から、漆塗り体験や紙漉き体験、そば打ち体験などの体験学習プログラムや都心の大学生及びNPO等による美術展示会等を実施することなどにより、盛金富士や久慈川など地域の資源を最大限に活用しつつ、地域住民が一体となって、交流のための事業を進めている。

これらの取組みをさらに拡大し推進していくため、本計画は、その拠点として旧盛金小学校の校舎を活用しようとするものである。そこでは、「奥久慈漆」塗りに取組むグループ、「西野内和紙」の紙漉職人、食生活改善推進員、観光案内人、老人クラブなど地域の様々な人材が盛金富士や久慈川といった地域資源を活用して、ハイキングや魚釣り・カヌー体験、漆塗り体験、紙漉体験などの交流体験事業行う予定

である。これにより、雇用の創出と地域の活性化が実現できる。

将来的には、盛金アドベンチャーロープスコースを用いた野外教育キャンプやワークキャンプを開催し、大学生や高校生に体験型教育の場としても提供し施設の充実を図ることでさらなる活性化を目指していく。

※ WACとは

W：ワークキャンプ（地域住民のために地域住民とともに行うキャンプ）

A：アドベンチャー・エデュケーション（冒険教育・自然との共生自然から学ぶ）

C：シティ&ローカル・エクスチェンジ（都市と地域との交流、山村留学、都会にないものの提供）

◎ オープンカフェの運営について

平日 地域住民の憩いの場として提供し、メニューは地場産を加工したお菓子やお茶（穀物コーヒー、有機野菜ジュース）

休日 平日メニューと昼食を提供（食生活改善推進員などのアイデアを食材に）

宿泊客の食堂としても利用する。（移動壁で仕切る）

都市と地域住民の交流の場として多目的に利用する。

部屋内に地域で採れた農産物や林産物・水産物を販売する。

◎ セミナールーム

偉人、伝統職人（西野内和紙、鍛冶屋、藁細工、竹細工など）、自然案内人、里山暮らしの名人など優れた人材を講師にセミナーやワークショップを開催

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

① 旧盛金小学校を拠点として、地域に有する様々な資源を活用して事業を実施することにより年間200人の宿泊客と1,200人の観光客が見込まれるが、5年後には約4倍の5,000人の観光客を目指すことにより地域経済の活性化が図られる。

② 地区住民が農業・林業体験や地場産品料理研修などのインストラクターとなる体験学習プログラムの実施等により、約20名の雇用創出が見込まれる。

③ 山方町は高齢化率31.42%で県内6番目と高い。この盛金地区は人口621人で高齢化率33.49%と町の中でも高い地区である。この地区の集集も年を追う毎に減少し連帯意識が薄れつつあるが、住民の文化活動をはじめとする子どもから高齢者が集まる憩いの場とすることで地域の連帯感が戻るとともに、都市住民との交流の拡大により地域の活性化が見込め

る。

- ④ 高齢者による農業や伝統産業、竹箆づくりやわら細工、炭焼きなどの指導・育成などにより、自己の技術や知恵が地域に役立つ喜びを得ることで、この地域が全国に誇れる特産品の産地であるとの自信と元気を取り戻すことにより地域に活気がもたらされる。
- ⑤ 地域での雇用の方が拡充することにより、若者の流失が減少し、定住人口の拡大が見込まれ、さらに地域の魅力を再認識することができる。

6 講じようとする支援措置の番号と名称

- 10401 公共施設の転用に伴う地方債繰上げ償還免除
- 10801 補助金で整備された公立学校の廃校校舎等の転用の弾力化

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業 NPO法人CFFとの協働による海外（フィリピン・カンボジア） 派遣事業を実施

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

- ・他の小学校廃校校舎の有効活用の検討
- ・特産品の開発・販売、芸術交流等の発信による地域資源の有効活用
- ・都市交流の促進による定住人口の増加に向けた施策の推進
- ・情報通信ネットワークの有効活用
- ・住民主体の協働と連携による地域づくり活動の推進

別紙 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容、
支援措置を受けようとする者及び支援措置を講じようとする日

別紙

1 支援措置の番号及び名称

10401 公共施設の転用に伴う地方債繰上げ償還免除

2 当該支援措置を受けようとする者

山方町

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

(1) 事業の目標

廃校となっている旧盛金小学校校舎を利用して、盛金WACローカルアクティベーション協議会が主体となり、盛金地区住民を巻き込みながら、都市住民との農林業体験等を中心として、地域に有する様々な地域資源を連携・活用して知恵と工夫による交流事業を行う予定である。

この事業による体験・研修、宿泊施設の利用料金等を事業の運営資金として充て、利益分については、農産物や地元特産物を中心とした地場産業の育成などを行うものとし、地区住民と盛金WACローカルアクティベーション協議会の連携した主体的・持続的な事業展開により、地域経済の活性化と地域雇用の創造を実現することを目標としている。

(2) 廃校校舎の転用の必要性

この施設は町のシンボルである盛金富士を南西に見上げ、東にJR水郡線、久慈川、国道118号が並列し、四季折々の景観が堪能できる高台に位置している。この地域は古くから伝わる鳥追い行事やお鹿島様を継承している仲間の会、また高品質の漆産出地で「奥久慈漆」を主体として活動しているグループ、伝統ある「西野内和紙」の紙すき業、老人クラブ、食生活改善推進員、観光案内人、子供会など人材に恵まれている。

また、自然資源では、盛金富士、熊の山のハイキング、バードウォッチング、山菜やきのご狩り、竹細工・藤細工・木工・竹炭など、久慈川を、利用したカヌーや釣り体験、農業、林業体験など里山ならではの資源が豊富にある。さらに、近隣施設として下小川キャンプ場（利用期間6月～9月、バンガロー15棟・ロッジ5棟・スペースキャビン3棟・バーベキュー棟）、家和楽青少年の家（宿泊施設・体育館）・家和楽キャンプ場が隣接しており、これらを連携させることにより充実した体験交流プログラムの提供を図ることができる。

また、長い歴史と地域の伝統文化を持ち地域のシンボリック存在であっ

た小学校が無くなってしまった地区住民にとっては、廃校校舎が地域の活性化を目指す施設となることにより、地区全体の連帯感を取り戻し、地域の活力向上にもなり、廃校校舎の転用は必要不可欠なものである。

◎ 起債借入れ状況

借入れ証書記号番号	長06第035020号
貸付年月日	昭和58年5月27日
事業名	義務教育施設
施設名	盛金小学校
当初貸付額	6,100,000円
貸付現在額	2,316,073円

別紙

1 支援措置の番号及び名称

10801 補助金で整備された公立学校の廃校校舎等の弾力化

2 当該支援措置を受けようとする者

山方町

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

平成16年7月から、盛金WAC（ワック）ローカルアクティベーション協議会に旧盛金小学校校舎を無償で貸与し、これらの事業を継続させながらさらに充実させていく。

更に、平成17年度には校舎（鉄筋コンクリート2階建）を（仮称）盛和ふるさとセンターに転用し、1階はオープンカフェ、事務室、職員宿泊施設、セミナールーム（ワークショップ）、調理室、風呂場、トイレ等に、2階を宿泊室、談話室等に改修し、ワークキャンプ、冒険教育、都市と地域の交流に着眼をおいた、新たな学びとふれあいの場を創造していくことにより、学校という地域財産の再生、地域の雇用と活性化を図るものである。なお、これらの管理運営については引き続き盛金WAC（ワック）ローカルアクティベーション協議会の自主的且つ継続的な運営に委ねるものとする。

この施設は町のシンボルである盛金富士を南西に見上げ、東にJR水郡線、久慈川、国道118号が並列し、四季折々の景観が堪能できる高台に位置、また地域性としては古くから伝わる鳥追い行事やお鹿島様を継承している仲間の会、また高品質の漆産出地で「奥久慈漆」を主体として活動しているグループ、伝統ある「西野内和紙」の紙すき業、老人クラブ、食生活改善推進員、観光案内人、子供会など人材に恵まれている。自然資源では、盛金富士、熊の山のハイキング、バードウォッチング、山菜やきのこ狩り、竹細工・藤細工・木工・竹炭など、久慈川を利用したカヌーや釣り体験、農業、林業体験など里山ならではの資源が豊富にある。また、近隣施設として下小川キャンプ場（利用期間6月～9月、バンガロー15棟・ロッジ5棟・スペースキャビン3棟・バーベキュー棟）、家和楽青少年の家（宿泊施設・体育館）・家和楽キャンプ場が隣接しており、これらを連携させることにより充実した体験交流プログラムの提供を図ることができる。

○ 旧盛金小学校の設立経緯

昭和44年度公立小中学校危険建物改築事業により改築

昭和５７年公立小学校校舎の増築事業により増築
平成１５年３月廃校

(１) 旧盛金小学校を活用した（仮称）盛和ふるさとセンターの設置及び運営。

（仮称）盛和ふるさとセンターの運営形式は盛金WACローカルアクティベーション協議会とし、当該センターの改修工事は山方町で行う。施設活用の基本方針は「地域住民の雇用創出」と「都市農村交流」とし地域の活性化を図るものである。

ア 地域住民の雇用創出の場

古くから伝わる鳥追い、お鹿島様行事を継承する仲間の会、高品質のうるし産地で「奥久慈うるし」を主体として取り組んでいる団体、伝統ある「西野内和紙」の紙すき業、老人クラブ、食生活改善推進員、観光案内人、子供会など人材が豊富であり指導者や協力者として雇用を図る。

地域でとれた農林水産物の直売や農作業の体験による不耕作農地の解消を図り生きがいを推進する。

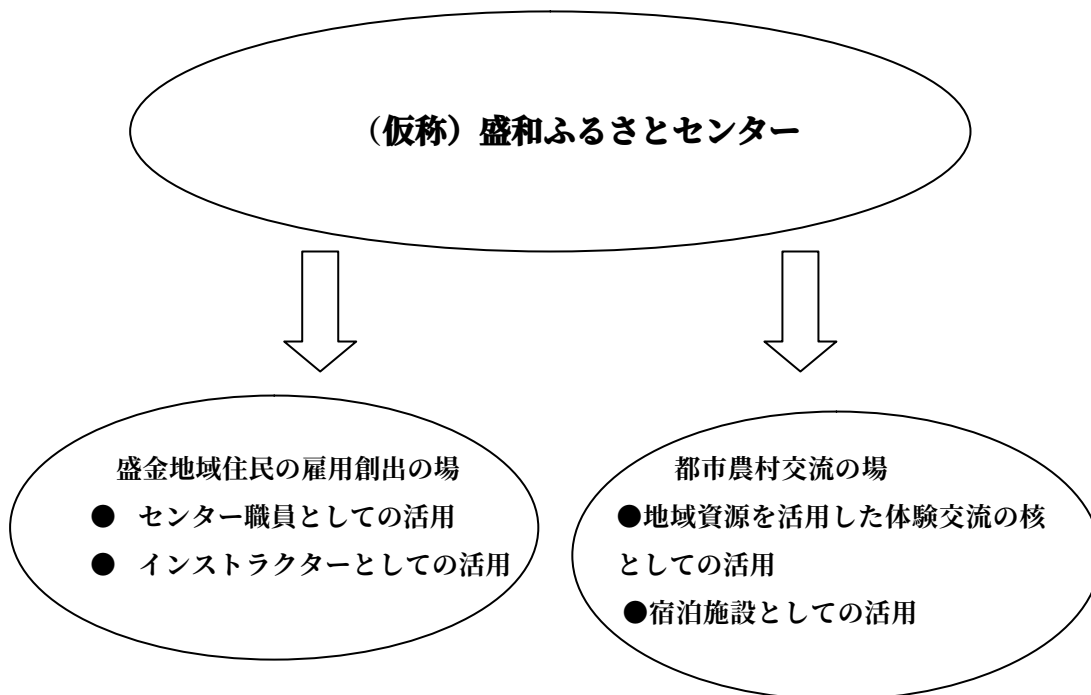
イ 都市農村交流での地域活性化

地域資源などを主体にグリーンツーリズムを展開するための核としての役割を担う施設と位置づける。

センターを訪れた都市住民等が、自然、郷土芸能、文化、農林業に触れ体験交流ができ、盛金住民がインストラクターとなる学習プログラムを展開していく。また、オープンカフェを交流の場として多くの人々が気軽に交流できる施設にしていく。

都市交流に係る運営管理は盛金WACローカルアクティベーション協議会に委託する。

（仮称）盛和ふるさとセンターの運営に係る財源は都市農村交流による体験・研修料・宿泊料・喫茶・食事による収益及び盛金WACローカルアクティベーション協議会資金を基本とする。



(2) (仮称) 盛和ふるさとセンターの改修整備

(仮称) 盛和ふるさとセンターは「地域住人の雇用の場」と「都市と農村との交流の場」の2つの活用を連携させた施設であることから、都市交流の拠点でもあり、地域の生活拠点となる施設としての機能をもつ必要がある。そのため、次のことを基本に地区の魅力を活かした改修整備としていく。

ア 既存施設の有効活用

地域住民が慣れ親しんだ学校なので、大規模改修は行わず山里の雰囲気大切に校舎の設備等を活かした最小限の改修とする。

イ 自然エネルギーの活用の施設

本町では平成13年度に新エネルギービジョンを作成し、住宅用太陽光発電システム設置補助金制度を導入したり、ハイブリット車を購入したりしてエネルギー消費対策に取り組んでいる。自然エネルギー施設として機能させ普及させていきたい。

ウ 参加体験型の改修

安易に施工業者に任せるばかりでなく、地域住民参加型のワークショップで進める。

グラウンドには間伐材などを利用し、住民参加、体験型盛金アドベンチャーコースを設置する。

(3) (仮称) 盛和ふるさとセンターと都市農村交流計画

ア ハイキングや魚釣り・カヌー体験

県立「奥久慈自然公園」の玄関口にあたり山紫水明、風光明媚な町であり、盛金富士、熊の山ハイキングが整備されている、また久慈川は水がきれいで鮎の名所でもある。これら自然を活用した体験。

イ こんにゃくやそば体験

粉こんにゃくの発明家中島藤右衛門の生誕の地でこんにゃく植えから収穫、加工の体験を展開する。

そばを植え、花の観賞、収穫、加工、そばづくりの体験を展開する。

ウ 田植え・茶摘体験

田植えから精米まで、茶摘から製茶になるまでの体験を展開する。

エ 漆体験

漆の木の性質から漆塗り体験を展開する。

オ 紙漉き体験

「西野内和紙」として有名で紙すき職人がいる。学習し体験を展開する。

カ 鳥追いやお鹿島様体験

郷土伝統行事として鳥追いやお鹿島様を実施している。準備から終了まで交流し田舎体験を展開する。

キ 盛金アドベンチャーロープスコースの体験

適用要件に該当する旨を明らかにする書類

- 1 廃校校舎等の設置者である地方公共団体において、地域再生計画を作成し、内閣総理大臣の認定申請をすること

山方町立盛金小学校（平成15年3月31日廃校）は、昭和44年山方町条例第12号「山方町立学校の設置条例」において山方町が設置した学校であり、廃校学校の転用の弾力化について山方町が認定申請するものである。

- 2 廃校校舎等を利用して実施される事業が、「地域再生推進のためのプログラム」に定める地域再生の意義及び目標に合致すること（民間事業者に対して廃校校舎等を貸与する場合にあっては、民間事業者と地方公共団体が連携協力して進められる事業であること。）

廃校校舎を盛金WACローカルアクティベーション協議会に貸与し、この協議会を主体として地域住民を巻き込みながら都市住民との自然、文化、農林業などの資源を活用し地域雇用の創出と地域活性化を図りながら、平成17年度校舎を交流・宿泊施設に改修整備し、（仮称）盛和ふるさとセンターに転用し施設を充実させ、引き続き盛金WACローカルアクティベーション協議会に管理運営を委託する。

この事業による体験、研修、宿泊と喫茶・食事等の売上げ料金を事業運営の資金として充てるが、利益分については協議会運営費や特産品の開発・研究、プログラムの向上資金として活用していくことにしている。このように盛金WACローカルアクティベーション協議会と地域住民が一体となって持続的な事業を展開し、町の活性化を図っていくことを目標としている。

- 3 地域再生の観点から実施される事業の効率的な実施にあたり、廃校校舎等の利用が必要であること。

旧盛金小学校校舎（鉄筋コンクリート2階建）は、町のシンボルである盛金富士（340.7m）の裾野にあり、JR水郡線・久慈川・国道118号が並列する交通の利便性や茨城県立自然公園の玄関口にあたる優れた自然環境など立地条件に恵まれた地域である。また、都市住民の足の確保の面からも比較的不便をかけずに体験交流等の事業を実施できる立地条件のよい場所でもあ

る。さらに、地域は古くから伝わる鳥追い・お鹿島様を毎年実施している団体や校庭の草刈りなど協力的な地域でもある。しかし、年々不耕作農地が増大し、山林も荒廃している、また廃校によってこれまで続いて来た地域の連帯感や協力感が薄れ、活力が低下してしまうことが懸念される。

児童の教育の場、父兄会や運動会・学習発表会など地域住民の生涯学習の場として長い歴史をもってきた校舎であり、懐かしく集まりやすく、自然環境、郷土芸能、農林業を活かした体験型を主体に事業に取り組む。

校舎改修にあたっては原型を保存しながら最小限の工事とし経費削減を図る。また、省エネルギー（太陽光発電など）に取り組んでおり自然エネルギー施設として機能をさせ普及させていく。

平成15年度から地域住民と連携して、うるし塗り体験や紙漉き体験、そば打ち体験、コンニャクづくり体験などの体験学習プログラムを実施し、都市との交流拡大により地域の活性化を推進している。また、都市部の美術大学の学生による「作品展」やNPO等による地域資源を活用した地域住民との交流を図ってきている。これら団体とのネットワーク拡大をはかり実施プランづくりとリンクさせていく。

4 同一地方公共団体における無償による転用であること又は他の地方公共団体もしくは民間事業者に対して廃校校舎等は無償貸与すること。

平成15年5月16日付山教発第118号により教育財産から行政財産となったが、学校校舎であり都市との交流施設としては不十分であるため、施設を改築するまでは盛金WACローカルアクティベーション協議会に施設を貸与し、町が主体で実施した交流等事業を協議会に移行し更に自ら計画した事業の展開を図っていく。貸与するにあたってはこの協議会に資金がなく無償貸与としている。プログラムの検討など協議会と町・地域が一体になって進めるが主体は協議会に置く。平成17年度校舎を交流宿泊施設等に改築し、（仮称）盛和ふるさとセンターとして設置及び管理に関する条例並びに指定管理者の指定手続等に関する条例を整備し、盛金WACローカルアクティベーション協議会が引き続き管理・運営を行う。